

令和7年12月19日

福岡市議会議長

平畑 雅博 様

福岡市議会広州市友好訪問団

団 長	平 畑 雅 博
副団長	篠 原 達 也
団 員	とみながひろゆき
〃	もろくま英 文
〃	勝 山 信 吾
〃	田 中 たかし
〃	綿 貫 康 代
事務局	高 着 一 孝
〃	兒 島 昌 臣
〃	西 野 桐 子

この度、下記のとおり出張したので、報告します。

## 記

### 1. 出張期間

令和7年10月21日（火）～10月24日（金）

### 2. 出張先

中国・広州市

### 3. 用務

福岡市議会広州市友好訪問

### 4. 用務の経路及び結果

「福岡市議会広州市友好訪問団出張報告書」のとおり

令和7年12月19日

## 福岡市議会広州市友好訪問団出張報告書

### 1 概 要

#### (1) 目 的

福岡市議会と友好都市である広州市の人民代表大会常務委員会との間で、双方の都市が抱える課題等に対して意見交換を行い、それぞれの政策検討などの参考とするとともに、交流により友好を促進し、もって親善に寄与することを目的としている。

平成3年度から隔年毎に訪問する相互交流を行っており、今回で29回目となる。

#### (2) 期 間

令和7年10月21日（火）～10月24日（金）

#### (3) 訪問団メンバー

団 長	平 畑 雅 博	（議長・自由民主党福岡市議団）
副団長	篠 原 達 也	（公明党福岡市議団）
団 員	とみながひろゆき	（自由民主党福岡市議団）
//	もろくま英 文	（ // ）
//	勝 山 信 吾	（公明党福岡市議団）
//	田 中 たかし	（福岡市民クラブ）
//	綿 貫 康 代	（日本共産党福岡市議団）
事務局	高 着 一 孝	（議会事務局次長）
//	兒 島 昌 臣	（議会事務局総務秘書課長）
//	西 野 桐 子	（議会事務局総務秘書課）

#### (4) 日程等

日付	都市	時間	内 容
10月 21日 (火)	福岡 ・ 広州	9:30	福岡空港 発
		10:30	上海浦東空港 着 ※乗り換え
		13:30	上海浦東空港 発
		15:50	広州白雲国際空港 着
22日 (水)	広州	午 前	広州市人民代表大会常務委員会 表敬訪問 交流協議「都市緑化について」
		午 後	花都区壆頭村及び竹洞村 視察

23日 (木)	広州	午 前 午 後	陳家祠及び広州海珠湿地公園 視察 広州文遠知行科学技術有限公司、広東省人大外事連絡所及び天河区獵德基層立法連絡ステーション 視察
24日 (金)	広州・ 福岡	12:25 17:00 18:20 19:40	広州白雲国際空港 発 仁川空港 着 ※乗り換え 仁川空港 発 福岡空港 着

令和7年度は、福岡市議会が広州市を訪問する年であり、広州市人民代表大会常務委員会から招聘を受け訪問し、「都市緑化について」をテーマとして交流協議及び関連施設の視察を行った。



## 2. 広州市の概要と福岡市との関係について

### (1) 広州市の概要

中華人民共和国南部広東省の省都。華南最大の都市で、珠江（しゅこう）デルタの北部に位置する。北京、上海に次ぐ中国第3の大都市である。

別名「花城」「羊城」と呼ばれるが、「花城」とは、亜熱帯に属し四季を通して花が見られることから、また、「羊城」とは、羊が口で稲を咥えて運んできたことから広州で稲作が始まったという伝説によるものであり、5匹の羊は広州市のシンボルであるとのこと。



（5匹の羊の像。中央の羊は口に稲を咥えている）

#### ① 人 口

約1,897万人（2024年末）

数多くの大学があり、学生数は100万人以上（全国一）とのこと。

#### ② 面 積

7,436km<sup>2</sup>

#### ③ 歴 史

広州は紀元前214年に建設され、2,200年以上の歴史を持つ。

広州の「花城」という呼び名は前漢の時代に始まり、陸賈（りくか）（前漢、紀元前2世紀）は著書「南越行紀」に、花城に関する記録を残している。

唐代には交易港として発達し、海のシルクロードの起点になった。清代には鎖国政策下で西洋との貿易が許された唯一の港となるなど、中国で唯一2,200余年開かれ続けてきた港湾都市である。1978年の開放政策以降は、深圳、珠海などの経済特区とともに経済的な発展を遂げている。1957年から年2回開催される「広州交易会」は、中国と海外の商人が取引する重要な場である。

#### ④ 経 済

2024年の広州市の経済成長率は2.1%（全国平均は5%）。2024年の域内GDPは約3兆1億元（約62兆円）で、1人当たりの域内GDPは20万1,400元（約420万円）である。※1元=20.68円で計算（2025.10.1レート）

自動車、鉄鋼、造船、機械、ハイテクノロジー、港湾物流及びサービス業の産業基地となっている。基盤産業の一つである自動車産業については、ホンダ、日産、トヨタが生産を行っており、広州市とその近隣都市に自動車のサプライチェーンが形成されている。

1984年に沿岸開放都市に指定、経済技術開発区が設置され、90年代には天河ハイテク産業開発区や保税區が設置されており、多数の外国企業が進出している。

広州市は近年、AI や IOT といったイノベーション施策、スタートアップ支援に力を入れており、世界的なドローン企業や AI 企業を有している。

高速鉄道の開通で、深圳まで最短 29 分、香港までは最短 45 分で行けるようになった。今後は、広州市内だけでなく近隣都市との市場の一体化が加速するものと考えられる。

#### ⑤ 港湾・空港

広州港は海上コンテナ航路が 223 路線、世界 100 以上の国・地域との貿易が行われており、港湾貨物取扱量は 6.87 億トン（2024 年）で世界 5 位、コンテナ取扱量は 2,645 万 TEU（2024 年）で世界 6 位となっている。2005 年に博多港と友好港の締結をしている。

広州白雲国際空港は中国の 3 大ハブ空港の一つで、5 本の滑走路を備え、2024 年の乗降客数は 7,636.9 万人であり、世界 10 位となっている。2025 年は 8,000 万人超の可能性があり、将来は 1 億 2,000 万人の利用を見込んでいるとのことである（訪問した際も空港の拡張工事を行っているとの話があった）。

#### ⑥ 鉄 道

地下鉄は 23 路線、全長約 800km あり、郊外も合わせると 1,200km に及ぶとのこと。将来的には市内で 1,000km の敷設を計画している。

広州駅の 1 日の乗降者数は 90 万人。地下鉄の 1 日の利用者数は 1,000 万人。

#### ⑦ その他

訪問団の滞在時、第 138 回広州交易会（10/15～19、10/23～27、10/31～11/4）が開催されており、何度も広州市側から話を伺ったが、世界各国から 25 万人ものバイヤーが訪れるとのことである。

また、11 月には第 15 回全国運動会（※）の開会式が広州市で開催されるとのことであり、横断幕やバナー広告等を街中で見かけるなど、活気を感じた。



（全国運動会のマスコット）

※全国運動会：日本の国民スポーツ大会に相当する。

その一方で、朝晩の交通渋滞が非常に激しく、広州市側の説明でも、交通問題は重要な問題の 1 つであるとのことであった。

市内を走行する自動車の約 6 割は電気自動車である。広州市は、インフラとして既に多くの充電施設を設けているが、新しく建設する住宅団地の中にも積極的に充電設備を整備している。

現在、電気自動車購入の際の補助金制度はないが、ガソリン代と比較して電気代の方が安いこと、AIを搭載した電気自動車の方が乗り心地がよいことといった理由から、年齢の若い世代は電気自動車を選択しているとのことである。

市内では、600 万台以上の電気自動車が利用されているとのこと。

歩道が広く、歩道の中に車の駐車スペースや自転車の駐輪スペースが確保されており、路上駐車車両は見当たらなかった。



(歩道上に駐車・駐輪スペースがある。  
左上のバナー広告は全国運動会のもの)

また、高速道路・一般道路、歩道橋の両側に木や花を多く植えてあり、「花城」の名にふさわしい街並みを感じた。



(道路や歩道橋の両側に  
花や緑があふれている)



## (2) 福岡市との関係

広州市には国際友好都市が 38 都市、国際友好協力交流都市が 71 都市あるが(2025 年 5 月末現在)、その中でも福岡市は広州市にとって最初の友好都市であり、46 年間の長い交流の歴史があるため、福岡市との関係は非常に重視されている。



### 3. 内容

[現地1日目] 10月22日(水)

#### (1) 広州市人民代表大会常務委員会表敬訪問

##### < 広州市側出席者 >

王衍詩	広州市人大常務委員会	主任
李小琴	広州市人大常務委員会	副主任
李海洲	広州市人大常務委員会	秘書長
謝柳青	広州市人大常務委員会都市農村建築環境資源工作委员会	主任
謝博能	広州市人大常務委員会農村農業工作委员会	主任
馬衛平	広州市人大常務委員会華僑外事民族宗教工作委员会	主任
劉伯饒	広州市人大常務委員会研究室	主任
雷瑋琚	広州市外事弁公室	副主任



(広州市人民代表大会常務委員会での記念撮影)

## <あいさつ要旨>

(広州市人大常務委員会 王衍詩 主任)

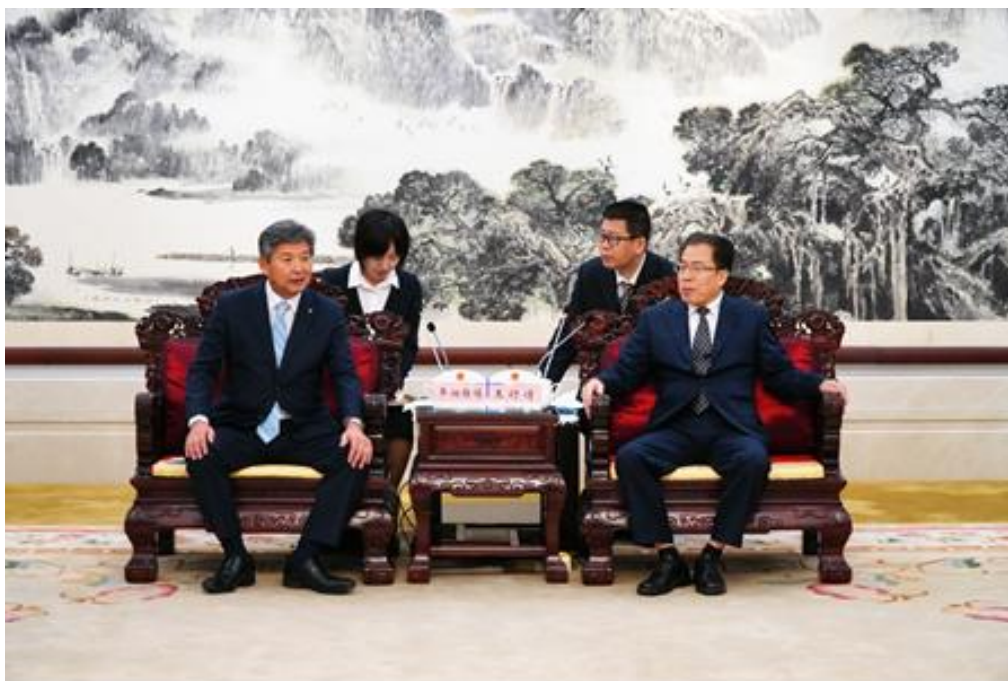
- 広州市人民代表大会及び常務委員会を代表して、皆様の訪問を心から歓迎する。
- 広州市にとって福岡市は、1979 年に初めて締結した国際友好都市であり、以来友好関係を築いてきた。
- 広州市は、広東省の州都であり、中国の重要な中心都市である。歴史文化の価値が高く、海洋に特色を備えた現代都市であり、科学技術・教育・文化の中心都市としても発展している。また、国際総合交流のハブとして機能しており、開放的な街で、69 か国の領事館が設置されているほか、50,000 社以上の外資企業が、広州市に進出している。
- 人民代表大会制度について説明させてほしい。人民代表大会には、国・省・市・区・県（県の下には町）の5つの区分がある。人民代表大会の代表は人民から選ばれ、人民に対して責任を負う。中国の政府や委員会の代表についてもすべて人民代表大会から選出され、人民代表大会に対して責任を負っている。  
人民代表大会は年1～2回の会議だが、その下部である常務委員会が毎月下旬（開催日数は2～3日程度）会議を行っている。傍聴席もあり、市民の傍聴も可能である。
- 昨年、私の同僚である李小琴副主任が、コロナ後初めて福岡市を訪問し熱烈的な歓迎を受けた。今回の福岡市議会訪問団の訪問により、広州市と福岡市の友好の絆が一層深まると確信している。





**（福岡市議会 平畑 雅博 議長）**

- 王衍詩主任をはじめご列席の皆様、このように盛大かつ温かくお迎えいただき、心より厚くお礼申し上げます。
- 福岡市議会広州市友好訪問団は、1991 年以来、隔年で広州市を訪問させていただいており、今回で 15 回目の訪問となる。前回の訪問は 2019 年であり、この度は 6 年振りである。私は 2005 年に訪問団の一員として広州市を訪問させていただいており、20 年ぶりに再び団長として貴市を訪問できることは、この上ない喜びである。
- 議員同士の交流は、毎回両市が関心を寄せる様々な課題を交流テーマとして意見交換を行うことで、相互理解と友好関係が深まり、両市の都市づくりと社会発展の促進に大きな役割を果たしてきたと確信している。
- 今回の訪問にご尽力いただいた王衍詩主任をはじめとする関係各位に厚くお礼申し上げ、今後の日中両国、福岡市議会と広州市人民代表大会常務委員会との末長い交流が続くことを祈念する。



（左：平畑議長、右：王衍詩主任）

---

## （２）【交流協議】 テーマ：「都市緑化について」

### < 広州市側出席者 >

馬衛平 広州市人大常務委員会華僑外事民族宗教工作委员会 主任  
鐘 潔 広州市人大常務委員会都市建設工作委员会 副主任  
張永建 広州市林業園林局 主席技師  
他 2 名

### < 協議内容 >

#### ○人民代表大会常務委員会の業務について

鐘 潔 副主任

近年、広州市人民代表大会常務委員会は、人民代表大会の機能を十分に生かし、林業・園芸・都市緑化分野における立法・監督・活動を着実に推進し、緑ゆたかな広州を目指して新たな飛躍を実現している



#### ① 実効性のある法律の整備による緑と大自然の保護

広州市人民代表大会常務委員会は、法律の実効性に重きを置いている。「小切口」（狭く深いアプローチ）、「小快霊」（小回りが利き、迅速で柔軟であること）を重視し、「一不写両必写」（書かなくてよいことと書くべきことの明確化）の原則を貫徹した。

すなわち、規定がなくても実行可能な事項は条文に記載せず、規定がなければ実行できない事項は必ず条文に明記する。また、規定が不明確であると実行が困難になる事項については明確に規定するように努めることで、実行可能で効果的な法律の制定を目指している。

例えば、2022 年に「広州市緑化条例」を改正し、それまでの「直径 5 cm 以上の枝の剪定には全て許可が必要」といった過度に厳格な規定を廃止した。

また、古木・名木、歴史的な名園、風致に富んだ並木道の樹木への制限の規定を改め、樹木保護の専門的法律を設けるなどした結果、中国国家都市農村建設部や業界関係者から高い評価を受けている。

現在、林業・庭園・緑化分野には 5 つの地方の法律がある。公園管理、都市緑化、生態林、森林公園、白雲山公園などの分野をカバーし、緑の美しい広州の生態建設に対するしっかりした法的基盤を有している。

## ② 適切で実効性のある、法に基づく監督を貫き、厳格さと実効性の強化

広州市人民代表大会常務委員会は、国及び広東省、広州市の人民代表大会活動の精神を断固として貫き、美しい中国と緑ゆたかな広州の建設に向け、着実に実行している。全てにおいて“状況把握は全面的に、問題の考察は深く、反映は正確に、提案内容は実践的に”のスローガンのもと、監督の質を向上させ、より効果的であるよう、困難な問題の解決を図り、国民の声に対して着実に実施している。

第1に、都市緑化管理に関して質問コーナーを設け、代表による実態調査や映像撮影を行っている。また、各人民代表大会（国・省・市・区・県）の代表が、市民の代表と直接意見交換を行っている。

第2に、「広州都市環境総体計画（2021-2035年）」を審議し、詳細な調査研究を実施するとともに、河川流域に関する自然資源の保護と利用の考察を行っている。また、生態ネットワークの盲点を解消するとともに、華南国家植物園、海珠湿地公園、南沙湿地公園の3公園や、珠江流域の生態システムについての意見交換を行うなど、新たな生態ネットワークの構築を推進している。

第3に、「広州緑化条例」の実施状況に対する定期的チェックを実施し、報告レポートと審議を通して、都市緑化を推進している。

第4に、「広州市公園建設と保護に関する計画（2025-2035年）」を審議し、計画の目標や実施方法等について意見交換や計画修正等を行い、広州市が世界的に有名で幸福な美しい緑ゆたかな花と水の街を建設するという目標に力を注いでいる。

## ③ 人民代表大会代表の役割の発揮と力の結集

広州市人民代表大会常務委員会は、代表たちが積極的に活動できるよう道を開き、プラットフォームを整備し、意欲を高く持って職務を遂行するよう、積極的な役割を果たしている。

第1に、人民代表大会代表の役割をよりよく発揮するためのテーマ活動を継続的に行っている。広東省在来野生植物の保護や利用状況、農村の生活環境改善などに関する活動を展開している。緑ゆたかな広州をテーマに、市及び各区の人民代表大会が共同で、多くの木を植える活動を行っている。広州市の代表7,200人が“私が全国運動会のために木を植える”というイベントに参加するなど、自然保護のよりよい雰囲気づくりに努めている。

第2に、代表たちの提案については、法律に基づいて適切に処理し“1つ

の提案処理を行うことで沢山の問題を解決する”という効果を達成するように努めている。このうち、広州国家植物園システム構築への科学技術支援を求める提案に対する処理については、2022 年の全国人民代表大会の提案処理作業の 10 大優秀事例に選出された。

第3に、代表たちが世論を反映する作業体制を整備している。内部機関誌である「人大代表情況反映」を通して、緑ゆたかな広州の生態建設の難しい問題や世論を、代表たちが自身の事務所において即時に反映・処理できるよう、また、問題点を随時報告できるようプラットフォームを整備し、市民の声を政府に速やかに届けられるよう進めている。

## ○広州市の緑化活動について

張 永建 主席技師

広州市の緑化面積は、市全体の 38.93%を占めており、公園では 94%となっている。

2024 年は、山・水・都市の調和した構造と伝統的なスポンジ都市の知恵を活かし、国土空間計画や湿地保護の取組みを行っていることが評価され、世界銀行や国連環境計画等の国際機関が発足させた「自然都市イニシアチブ (Nature Cities Initiative)」から、パリ、シアトル、ケープタウン、サンパウロの諸都市とともに、世界初のモデル都市に選出された。



### ① 都市発展の規律の尊重と、緑ゆたかなシステムの構築

緑ゆたかな広州をつくるため、「広州市 2049 年都市発展戦略計画」や「国土空間計画 (2021-2035 年)」を策定し、さらに具体的な中長期計画を推進している。

### ② 人と自然の調和と共存のための、山・水・林・田・湖・草・砂の徹底的管理

広州市で最も大きい植物園である華南国家植物園を中心に、緑の面積を拡大している。また、植物園、動物園、種（たね）の資源を守る区域、自然を守る地域、湿地、野生動物の居住エリアを守っている。華南国家植物園建設については、2022 年国務院の指示により、特に力を入れている。

**③ 嶺南文化（広東省の地方文化）の特色を伝承し、1,000年の歴史を持つ花の都のブランド力を打ち出す施策**

歴史がある庭園や古い樹木を大切にし、また、広州をアピールするため、例えば、越秀公園では2024年には城壁を守る交流イベント等を行っている。

また、代表的な庭園は、外国の首脳と中国の首脳の会合の場所としても利用されている。

**④ “緑の水、青い山はすなわち金山銀山である”の理念に基づいて自然を大切にし、林業庭園の産業をつくり市民の生活をより豊かにする道の模索**

公園の価値を活かしており、2024年に広州市の公園への観光客は1億6,000万人を超えている。公園を利用した旅行や経済などの産業に関しては、2024年には5,500億円の収入を生み出した。

**⑤ 市民サービスという理念と、緑ゆたかな街をつくるという理念**

特に、珠江のほとりの両岸に公園建設を行っている。かつての鉄鋼業の工場跡地を利用し、公園面積を拡大している。2018年以来、緑地面積は3,000ha以上増加している。また、大都市の公園だけでなく農村部の緑化にも取り組んでいる。歩道にも力を入れており、緑道は3,953km、碧道（美しい水辺の道）は1,396km、森林遊歩道は602km整備している。

広州市は大きな公園だけでなく、小さな公園建設にも取り組んだ結果、2025年、世界都市公園協会（※）から「アジア太平洋地域コミュニティ公園賞」を受賞した。

※世界都市公園協会：英語名 World Urban Parks 都市における緑とオープンスペースが持つ多様な機能（健康増進、環境改善、防災性の向上など）の価値向上に取り組んでいる国際組織

そのほか、空中フラワーコート建設も推進し、立体的な緑化面積が100km<sup>2</sup>を超えた。市民が“窓を開ければ緑が見え、道を歩けば木陰があり、家を出れば公園に入れる”環境を整備し、子ども向けの公園だけでなく、バリアフリーの公園や、運動公園づくりにも取り組んでいる。

**⑥ 市と市民との共働管理のシステム**

“林長制”という、林の管理の責任者を定めるという制度を実施し、責任者は6,606人存在する。また、緑化資源を監督するネットワークは5,597設置されている。林業庭園空間を管理監督するシステムを構築するとともに、多くの市民が管理監督を行う政策を打ち出す等の工夫をしている。

今後も広州の緑化政策は、人民代表大会の指示のもと、必ずよりよく発展すると自信を持っている。



## ○福岡市の都市緑化について

勝山 信吾 議員

### ① 福岡市の概要

福岡市はアジアの大都市からアクセスがしやすい都市で、山と海に囲まれた自然豊かな都市である。

人口は、広州市の約10%の167万人、面積は広州市の約5%の343.47 km<sup>2</sup>である。

都心と博多駅、福岡国際空港、博多港が半径2.5km以内に集積したコンパクトな街であり、空港から都心部の博多駅まで、地下鉄を利用すれば約5分でアクセスすることができる。

市民意識調査でも、市内に居住する95%以上の市民が「住みやすいまち」と評価している。

また、福岡市は、多くの人から選ばれるまちとして、人口増加数・増加率、0～14歳の増加数・率、及び若者（15～29歳）の割合は、日本の主要な都市である政令市の中で第1位となっている。

公園については、全市的な配置バランスを考慮し、本格的な運動施設や自然とふれあえる場所など、スポーツ・レクリエーション機能を有した16か所の大規模公園を配置し、また、身近な公園として約1,700の公園があり、市民1人当たりの公園面積は8.67 m<sup>2</sup>である。

みどり豊かなまちづくりを推進するに当たり、公園愛護会制度や街路樹サポーター制度（地域住民や企業が公園や街路樹の除草や清掃活動を行う）、一人一花運動、都心の森1万本プロジェクトなどの事業に取り組んでいる。



### ② 大規模公園の取組みについて

福岡市を代表する大規模公園は、舞鶴公園、大濠公園、福岡市動植物園の3公園が挙げられる。

3つの公園はそれぞれ福岡市の都心部の近くにあり、郊外の山から連続した中央緑地帯に位置している。また、舞鶴公園と大濠公園は隣接し、両公園を一体的に活用するセントラルパーク構想を策定している。広大な池やその周辺の園路は市民の憩いの場として、また、福岡城や福岡市美術館は歴史・芸術文化、観光の発信拠点となっている。

舞鶴公園及び大濠公園には、かつて飛鳥・奈良・平安時代（西暦600～1200年頃）は中国や朝鮮半島からの使節団の迎賓館である鴻臚館があり、近世（西暦1600年頃）は黒田長政が福岡城を築城した。現在は平和を祈念した、平和台陸上競技場などのスポーツ施設がある公園となっている。

日本には、春に桜の木の下に人々が集まり、花を愛でながら飲食や交流を楽しむ習慣がある。毎年3月末から4月上旬に「福岡城さくらまつり」を開催しているが、1,000本の桜と石垣のライトアップがなされ、毎年50万人以上の来園客で賑わっている。

福岡市動植物園は市内で唯一の動植物園である。面積は、動物園、植物園いずれも約10haであり、展示件数は2025年3月現在、動物約100種434頭、植物約2,640種である。開園は1953年であり、2006年から動植物園のリニューアルを開始している。リニューアルでは地形を生かして、動物の多様な行動を引き出す動物福祉に配慮した行動展示を行うとともに、各獣舎を広げ、屋上緑化にも取り組んでいる。

植物園では、入口エリアにバラや草花があふれ、1年を通して楽しめるエントランスガーデンの整備を進めている。2026年3月のオープンを目指し、エントランスガーデンの完成後は、ガーデンコンテストをメインコンテンツとした福岡フラワーショーを開催予定である。フラワーショーの開催を通して、植物園を福岡市における花と緑の象徴的な拠点として、さらにその存在感を高めていきたいと考えている。

### ③ 公園の再整備について

福岡市では、「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、誰もがお互いを理解して安心して笑顔で自分らしく遊ぶことができる、インクルーシブな子ども広場を整備している。整備に当たっては、地域や障がいをお持ちの方からのご意見を伺いながら設計を行い、2026年春までに各区1か所ずつの整備を進めている。

完成した広場は多くの方々に利用されており、障がいがある子どもの保護者の方から「初めて公園で遊ぶことができた」「子どもを安心して見守ることができた」との声をいただいている。

また、民間事業者と連携した公園の再整備も行っており、民間事業者が公園内のカフェを経営し、その収益の一部を公園の遊具などに還元し、公園の活性化を図るなどしている。

現在、清流公園、明治公園、音羽公園などにおいて、民間事業者が工事や設計を進めており、2026年春以降、順次供用開始を予定している。

### ④ 市民や企業との共働について

福岡市では、2018年1月、年齢や性別、国籍を超え、誰もが親しめる花をツールに、市民や企業・行政が一丸となって共創のまちづくりに取り組む、「一人一花運動」を開始した。

一人一花運動は8年目を迎え、例えば、地元プロ野球チームはドーム球場において、独自のおもてなしとして花を活用したり、また、ある企業では創

立 100 周年事業の一環として、道路に花時計を整備したりするなど、花を活用したまちづくりの取組みは着実に広がっている。

「花と言えば福岡市」と言われるようなフラワーシティを目指している。また、2026 年 3 月 22～26 日には、福岡フラワーショーを開催予定である。



2023 年 2 月には、「都心の森 1 万本プロジェクト」を推進し、市民や企業との共働により、小中学生や記念日を迎えた市民の方に苗木を配付したり（メモリアルツリー）、寄付などを活用した地域や企業による植樹の実現に向けた調整を行うなど、都心部をはじめ全市域で植樹運動を展開して、みどり豊かなまちづくりを推進している。

2025 年度から、集合住宅のベランダ緑化への助成（グリーンビル促進事業）、福岡市役所本庁舎や地下鉄駅など公共施設の緑化を進め、2026 年春には完成予定である。ぜひ、花と緑にあふれた福岡にお越しいただきたい。

#### <所見>

- 広州市の都市緑化計画が国を挙げてのプロジェクトで、スピード感もあり、花や緑との共生によるゆとり醸成、コミュニティの形成、環境対策状況などが理解できた。
- 2,000 年の歴史を受け継ぎながら、急速な経済的発展によるエネルギー消費や気候危機問題、格差問題がある中、緑化を大きく据えながら、これらの課題をどう解決していくのかなど、福岡市にも大いに参考になることもあるため、今後も関心を持っていきたいと感じた。
- “窓を開ければ緑が見え、道を歩けば木陰があり、家を出れば公園に入れる”というフレーズが印象的で、実際に広州市の街なかでは、道路や歩道橋に花や緑があふれており、コンセプトに沿った施策が進められていると感じた。

---

### （３）花都区塋頭村視察

中国では、都市部だけでなく地方の緑化施策についても推進している。

塋頭村は 1367 年にできた、中国の伝統的な集落で、明や清の時代の建築様式がそのまま残っている村である。

2015 年から広東省の保護を受けており、村全体の自然環境保護に加えて、現代建築スタイルと嶺南の古村落建築を融合させた芸術文化センター（春陽台）を整備した結果、多くの観光客が訪れる美しい村になっている。

（上：伝統的集落を視察。下：センター内の図書室）



---

### （４）花都区竹洞村視察

竹洞村は、1,000 年以上前から盆景（盆栽）を行っていることで有名な村であり、1990 年代にはイギリスのエリザベス女王に盆栽を献上したことがあるとのこと。現在も多く多くの住民が盆景業務に従事し生計を立てている。



盆栽だけでなくオリーブの木や樹齢 100 年以上のライチの木などもあり、10 月末に咲くブーゲンビリアが非常に美しいとのこと。花都区は広州の中心部から 40km も離れているが、休日には都心から多くの市民が買い物、観光やキャンプ等に訪れることから EC（電子商取引）産業が発達し、塋頭村及び竹洞村は、大勢の観光客が訪れる美しい村の成功例である、とのことであった。

#### <所見>

○日本の盆栽のイメージとは違い、広大な地域に大きな木が、盆栽のように葉を切りそろえて植樹されていたり、盆栽用の大きな鉢に植えられていたりした。盆栽の技術は日本人から教えてもらっているとの話だった。敷地内を電気自動車で回ったが、様々な国の樹木や花が数多く植えられていて、まさに“花都区”と言われる名前の所以を感じる地域であった。



---

【現地2日目】 10月23日（木）

---

### （１）陳家祠

陳家祠は、科挙（中国の官僚登用制度）を受験する者や科挙のために勉学に励む者を支え、一族の祖先を祀るため、広州 72 県の陳姓の人々がお金を出し合い、1894 年に建設された。

広東省を代表する清末の建築物として、中国の重要文化財に指定されている。



### （２）広州海珠（かいじゅ）湿地公園視察

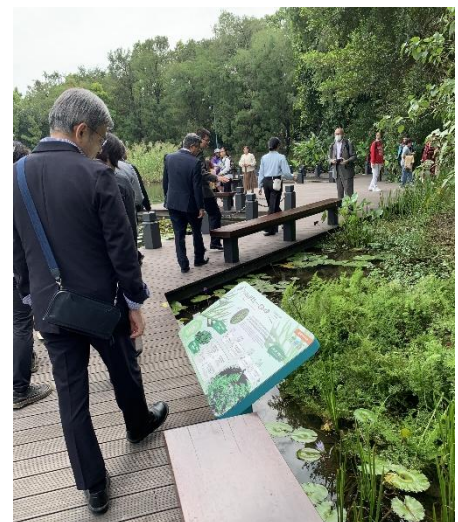
広州海珠湿地公園は広州市の中心地である海珠区にあり、11.1 万 km<sup>2</sup> という非常に広大な面積を有する公園である。

海珠湿地は、人造湖である海珠湖と支流 39 本で構成されており、中洲、河川、支流、果樹林からなる典型的な複合湿地帯系で、「広州の緑の心臓」と称されている。



以前はライチやリュウガンを栽培する果樹園が広がっていたが、2010 年に広州市が公園整備事業に乗り出した。環境保護と市民の憩いの場のため、現在も整備が続けられている。環境保護のため、立入禁止区域が全体の 40% 程度あり、入場者数の制限も設けられているとのこと。

公園の担当者によると、海珠湿地公園と他の湿地公園の違いは、多くの果樹（ライチやリュウガンの他、スターフルーツ、モモ、バナナ、マンゴー、グァバ、パパイヤ等）が植えられていたり、公園内の水田で農業従事者が稲作を行っていたりすることと、大都市の中心部にあるということだという。また、海珠湖は、大雨の際は雨水の貯水湖となって街を守っているとのことである。



なお、公園整備は気温にも影響を及ぼしており、広州市の中山（ちゅうざん）大学研究チームは、海珠湿地公園及び白雲山（はくうんざん）公園（広州市白雲区）を整備したことで、海珠区の気温が 2 度下がったという研究成果を発表しているとのことであった。



### （３）広州文遠知行科学技術有限公司（WeRide）

同社は2017年アメリカで立ち上げ、2018年に広州に拠点を移している。自動（無人）運転自動車の開発のうち、バス、タクシー、一般車、清掃車、物流車（デリバリー車）に力を入れている。2024年10月にアメリカ株式市場（ナスダック）に上場した。

会社名の「文遠」は中国の有名な数学者・祖冲之（字：文遠）の名前から、「知行」は王陽明の“知行一致”からつけたとのことである。自分たち中国人で世界に通用する会社をつくろう、という意味を込めており、自分たちの仕事が、世界の交通渋滞の解消につながることを期待しているとの説明があった。

課題は、技術に法律が追いついていないことであり、道路交通法が有人運転を前提としているため、条例や法律の改正が必要だとの話であったが、広州市側と調整して環境を整えることが会社の使命と認識しており、技術によって世界がより便利になると確信しているとのことである。

自動運転バスは市内で60台運行している。AIによる完全な自動運転で、車内にはハンドルもブレーキもなく、事前に設定されたコース（一般道路）を走行する。遠隔操作室でバスのモニタリングをしているため（1人当たり20台の確認が可能だが、条例で3台までと規定されている）、車内での急病人発生の際の対応や、事故や大きな渋滞が発生した場合のコース変更が可能である。

乗客は、市内各所に設置されたバス停から乗車し、運賃はICカードで支払う。運行開始から8年経つが、自損事故を起こしたことはないが、追突されたことはあるそうだ。自動運転のデータは集約され、人が運転する場合と比較しながら研究を行っている。



（自動運転バス試乗車にて試乗体験）

無人タクシーについては、時速100kmのスピードを出すことができ、高速道路を走行することも可能。将来的には空中飛行車の開発も考えているとのこと。

<所見>

○18年ぶりに中国を訪問したが、中国の進歩には目を見張るものがあった。特に自動車分野では世界をリードしている。民間企業でレベル4（高度自動運転）の技術を開発しており、実際に時速 50 kmのバスに試乗させていただいた。

○中国では 30 社以上の企業で自動運転バスやタクシーが実証実験中であり、また、広州だけで複数路線が商用化されており、日本との規模の格差は歴然としている。九州大学跡地における福岡市のスマートシティ構想に生かせる実感した。

○試乗車はかなりのスピードが出ていたが、他車や道路の横断者に対しての反応もよかった。

（自動運転の清掃車。海珠湿地公園でも活躍しているのを見かけた）



#### （４）広粵国際コミュニティ広東省人大外事連絡所

同連絡所は天河区獵德街道に位置しているが、同地区には世界 80 か国・地域の 3,300 人以上の外国人が居住し、また、オーストラリア、アメリカ、ドイツなど 29 か国の領事館や 7,900 社以上の企業が集積している。

このため同連絡所は、地域に住む全ての人々（中国人及び中国人以外の住民）に対して文化や娯楽、学習のサービスを提供し、多彩なイベントを通して、中国と外国の文化の相互交流や受け入れ、融合を進めている施設である。

イベントの他にも、行政サービス端末の設置や、バイリンガル法律事務相談を行うなど、多彩なサービスを提供している。



<所見>

○多文化共生による様々な取組み（イベントなど）が定期的な実施され、老若男女を問わず、それぞれの文化や習わしなどの共有がなされ、コミュニティが形成されていることが理解できた。

○自動車工場のある地区であり、周辺に 24 か国のレストランや高級マンションが建ち並んだ、日本人をはじめ多くの外国人が居住するエリアであった。

## （５）天河区猎德基層立法連絡ステーション

連絡ステーションには、市民が、人民代表大会に対して、自分の意見を伝えることができるよう、右の写真のように、入口傍にＱＲコードが設置されている。スキャン後フォーマットに入力することで自分の意見を伝えることができる仕組みとなっている。

2023年に広州市で初めて設置されたＱＲコードは、現在全604か所のステーションに置かれており、市民はいつでもどこでも、人民代表大会代表に対して問題の反映や意見の提出を行うことが可能となった。

人民代表大会の代表たちは、問題の大小にかかわらず、寄せられた意見については3日以内に対応しなければならず、また、処理に関わった件数や、市民が評価した満足度ランキングについても公表されているとのことである。

### <所見>

○ＱＲコードを利用して寄せられた市民の意見が、政策にどれだけ反映されているのか気になった。



（取り扱った問題への対応結果や評価等が一覧表になって掲示・公表されている）



---

#### 4. 総括（まとめ）

- 福岡市は広州市にとって最初の友好都市であり、40 年以上にわたり長い交流の歴史がある。市民・議員として友好関係を深めるとともに、都市緑化・現代農業・盆景産業・湿地公園管理・科学技術・国際交流をテーマとした協議や視察を行うことができた。
- 環境に対しての考え方やインフラの整備状況など、日本よりさらに進んでいる場面をいくつも発見できた。空港への出迎えから始まり、全てにおいて“おもてなし”を体験できた貴重な時間であり、広州市の対応については感謝しかない。
- 電気自転車の数と種類の多さに驚いた。電気自動車というよりバイクの機能に近く、車にも歩行者にも危険だが、取り締まりが難しいとのこと。シェアサイクル、シェアバイクも増え、2024 年広州市人民代表大会で電気自動車の規制条例が制定されたとのことだが、専用道路の整備が課題とのこと。本市も様々なタイプのシェアできる乗り物が増えているが、規制が追いついておらず、また、道路や歩道も狭いため、広州市の交通問題対策は、本市にも参考になるのではないかと感じた。
- 緑化については、規模のスケールも大きく圧倒的だったが、中国全土からすればまだ比率は少なく、今後も拡大が必要なのだと感じた。また、この取組自体が世界に与える影響も大きいと感じた。自然環境と災害との観点では、山林を守ることが水害を防いだり、被害を抑えることにつながったり、農林水産業の発展が景観とともに地域の活性化につながるなど、本市の施策にも生かせるのではと感じた。何より終始友好的な交流ができ、このような都市の友好的交流が続くことを願ってやまない。